

今回の設計では、旧越家住宅が持つ既存の良さを損なわず、空間の雰囲気に溶け込みつつも、前半の設計の一部である、縁側カフェでのくつろぎをサポートするようなインテリアを設計しました。

まずは座椅子の提案です。平面図を見て分かる通り、かなりゆとりを持たせた寸法となっています。これは、縁側が本来持つ開放感、くつろぐときの落ち着きを損なわないためです。片肘付きになっているのもこのためです。全体のフォルムとして、曲線を多く取り入れることで、木材の堅い雰囲気を和らげつつ、和風で美しい印象を与えています。また、この土間空間での足下の寒さを考慮し、肘置きを支えの位置は、ブランケットを脚に掛けるとき邪魔にならないよう調整しました。

次に、プレートです。プレートは座椅子の肘置きに差し込むことができます。可動式にすることで、不意に立ち上がりたいときに手軽に移動させることができます。テーブルをただ置くときに比べ、利便性の向上、スペースの削減が期待できます。

最後に、建具の再利用です。元々使われていた建具を壁面のデザインとして再利用します。昔特有のガラスを残しつつ裏側を鏡にすることで、庭をゆらめかせつつ反射します。